

●逃げる。

避難者を思ふ
 込みあへる汽車の窓べに
 目をはらし泣きてゐし人をつねに忘れず

山口赤壺

アララギ発行所・編『灰燼集 大正十二年震災歌集』
 古今書院、大正十三年五月二三日

鐵道も有賃

此處數日中に
 罹災民の避難歸國に就いては
 従来鐵道其他の無賃輸送を行

先ひ鐵道従業員の如き食事の暇
 もなき程に懸命の努力を掛け
 て居たが最早しん災後約一ヶ
 月を経過し輸送も大部分を了
 したので鐵道省においても此
 處數日中に無賃を擱り凡そ
 てを普通有賃とする由に聞く

復乗は五割引き

鐵道次官の通牒
 しん災地から一旦無賃扱ひで
 避難した者で更に故郷又は親
 族知己の許に歸る場合の運賃
 割引方に關して今回鐵道次官
 から左の如く通報があつた
 しん災罹災者にして一旦他
 宜の地點まで無賃扱ひに依り
 避難したる者が更に故郷又は
 親族知人の許へ歸行する
 場合に於ては現避難地を所
 轄する府縣知事又は市町村
 長の證明書引換に三等客運
 賃の五割を低減す



「横浜駅ノ避難民輸送」(『横浜納札浜菱連追善大会』所収)